

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(令和元年9月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m3以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:106)
2. 調査実施時期 令和元年9月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

4. 企業判断指数の算出方法
 [(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]
 (最大値100/最小値-100)

5. 調査結果(回答工場数:101社 / 回答率:95.3%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
H30.12	-36	-47	-47	-	-	-
H31.3	-	-3	-27	-41	-	-
R1.6	-	-	5	-15	-32	-
R元.9	-	-	-	12	-4	-11

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
当年	146,052	178,606	183,683	-	-	-
(前年)	128,115	166,125	165,671	160,285	146,052	178,606
対前年比	114%	108%	111%	-	-	-

(概況)
 在庫量から判断すると、トドマツの原木在庫は前年を上回っているが、冬にかけて前年を下回ると回答した企業が若干多い。

(回答企業の主なコメント)
 昨年よりは多く流通/時期により入荷はまちまち/今後も厳しい状態/原木の質が落ちて歩留まりが悪い/小・中径木の入荷が少ない/価格高止まりで、採算厳しい/今後出材増加の見込み/今のところ不足感なし

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
H30.12	7	-10	-9	-	-	-
H31.3	-	-10	-12	-7	-	-
R1.6	-	-	-17	-17	-26	-
R元.9	-	-	-	-30	-39	-40

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
当年	224,597	197,058	205,340	-	-	-
(前年)	214,410	190,366	210,344	205,404	224,597	197,058
対前年比	105%	104%	98%	-	-	-

(概況)
 原木消費量から判断すると、トドマツの製品荷動きは前年並みだが、冬にかけて前年を下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)
 建築材の荷動き前年並み/少し落ちている/梱包材・パレットの荷動き減少(輸出が特に悪い)/ミナノの発注量低調/米中貿易摩擦と円高の影響により需要減/建築が遅れている/増税後の荷動き減少を懸念している

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
H30.12	-59	-64	-57	-	-	-
H31.3	-	-29	-47	-50	-	-
R1.6	-	-	-17	-41	-45	-
R元.9	-	-	-	-16	-16	-19

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
当年	166,827	224,394	234,584	-	-	-
(前年)	173,281	180,409	192,395	179,587	166,827	224,394
対前年比	96%	124%	122%	-	-	-

(概況)
 原木在庫は前年を上回っているが、今後の集荷について慎重に捉える企業が多く、今後は前年を下回ると回答した企業が多い。

(回答企業の主なコメント)
 不足感を感じていない/原木は一定量確保/トドマツと比較し製品の需要が多いため不足感が消えない/中小径材不足/自社造材のため、不足感無し/入札価格高騰/立木、素材の売物件が少ない/パレット不足

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
H30.12	11	5	-2	-	-	-
H31.3	-	18	12	2	-	-
R1.6	-	-	2	-16	-19	-
R元.9	-	-	-	-34	-40	-45

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2018.10-12	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3
当年	288,663	262,626	282,191	-	-	-
(前年)	309,295	286,973	312,613	287,480	288,663	262,626
対前年比	93%	92%	90%	-	-	-

(概況)
 原木消費量から判断すると、カラマツの荷動きは前年を若干下回っており、今後も下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)
 引き続き注文順調/輸出関連の減少が目立つ/梱包・パレットともに昨年対比減少/ミナ材出荷量同程度/レンタル向けパレットが減少/米中貿易摩擦の影響大/人手不足の影響で生産量減少/プラパレットの動向注視